

令和2年度第5回横浜市創造界限形成推進委員会会議録	
日 時	令和3年3月24日（水）10時00分～11時40分
開催場所	開催方法：WEB会議（事務局設置：横浜市役所共用会議室さくら16）
出席者	野原委員長、六川副委員長、遠藤委員、岡本委員、菅野委員、重松委員、日沼委員、 簗谷委員、山口委員、恵良氏
欠席者	なし
開催形態	一部非公開
議 題	1 審議事項 （1）令和3年度事業計画及び事業評価軸について （2）文化芸術創造発信拠点形成事業の期間延長について 2 報告事項 旧第一銀行横浜支店及び旧老松会館の公募に向けた進捗について 3 その他
決定事項	
	<p>【開会】 事務局 ○令和2年度第5回横浜市創造界限形成推進委員会を開始する。</p> <p>【資料確認】 事務局 ○配付資料の確認が行われた。</p> <p>【定足数の確認】 事務局 ○委員9名中9名が出席しており、委員会の成立となる。</p> <p>【会議の公開・非公開】 事務局 ○本会議は横浜市の保有する情報の公開に関する条例第31条により原則公開となるが、審議事項（2）「文化芸術創造発信拠点形成事業の期間延長について」及び報告事項「旧第一銀行横浜支店及び旧老松会館の公募に向けた進捗について」は、同条例第7条第2項第5号に当たるため非公開とするが、よろしいか。 （了承）</p> <p>審議事項（1）：令和3年度事業計画及び事業評価軸について ＜事務局より説明が行われ、議題について審議が行われた。＞ 野原委員長 ○各分科会の議長からも説明をお願いします。 簗谷委員 ○BankART1929は、分散型の実験事業であり、次年度からはR16は使用できなくなり、KAIKOとStationの2本柱での活動になる。次年度の事業内容については、基本的にはこれまでの取組と大きく違いはない。分科会にて、運営団体にコロナ禍を踏まえた新たな取組という点を確認したところ、コロナ禍であってもリアルということを最大限重視してやっていきたいという話があった。それも一つの考え方だと分科会</p>

	山口委員	<p>としては感じており、次年度も引き続き頑張っていたきたい。</p> <p>○旧老松会館は、稽古場であるという場所の性質上、コロナ禍ではかなりご苦労なさっていた。レンタル事業の料金が落ち込んでいたが、一方光熱費等が浮いた部分もあり、財政的にはそんなに大変な状況ではなかったと理解している。前年に開始した「インサイドアウト」と題した、表舞台には出ないが舞台芸術の創作活動において非常に重要な機能を果たしている音響や制作といった職能に光を当てるインタビュー動画は、内容も非常に良くて、来年度の継続も楽しみにしている。また、以前の分科会でも意見や提案があったアーティストに考えてもらう子供向けワークショップを計画しているので大変楽しみにしている。急な坂スタジオとして運営が始まってからちょうど 15 周年を迎えるので、状況を見ながら、色々なことができればと思っている。</p>
	日沼委員	<p>○黄金町は、特にアーティスト・イン・レジデンスを柱にしているため、感染予防の観点から大変ご苦労されたという話を聞いている。黄金町の場合は、中長期でスタジオを利用するレジデントと招聘型の2種類があるが、どのように発表の場につなげていくかを工夫している。例えば、海外の招聘事業のアーティストであれば、長期滞在しているアーティストたちのコミュニティを使って、リモートで招聘アーティストの指示のもと、地元アーティストが作品をつくることにトライしてみようとか、あるいはバザールであれば、プロフェッショナルに制作に入ってもらい、リモートでの設営を行うなど、様々な工夫をしている。次年度もリアルな国際交流を前提にはしているものの、臨機応変に対応していくにはリモートのやり方をもっと工夫していく、これから検証しながら取り組んでいく必要があるとお話しされていた。また、この分科会では、アートによるまちづくり、安心・安全なまちづくりのゴールはどうするのが毎回議論になる。どのように行政とNPOが共通のゴールを認識し、進めていくか。この共通認識を持たなければ、これまでの努力の成果が失われてしまうおそれもあるので、非常に懸念される意見があった。また、令和8年度で一旦京浜急行電鉄との契約が満了するため、これからの事業計画のためにはゴール設定が非常に重要だという意見もあった。</p>
	菅野委員	<p>○象の鼻テラスは、無料休憩所という性格もあり、コロナ禍で一定の集客がある中で様々な文化イベントをやってきており、そういった困難さはほかの施設と同様にあった。ただ、その中で、デジタルの活用と国内アーティストの支援のための展示に事業内容を切り替えて、かなり臨機応変に事業の組立てを行ってきたことは非常に高く評価している。デジタルの可能性をこれからも積極的に取り入れていきたいということで、その中に新しい事業の可能性も生まれてくると思うので、そういった姿勢は積極的に私たちも応援したいと思う。また、これまでは象の鼻テラスを中心に活動していたが、国際文化交流の一環であ</p>

	<p>る PORT JOURNEYS では、横浜市と姉妹都市提携などを組んでいる都市とディレクターズ会議を継続して実施してきており、多彩なプログラムをつくってきている。その一端として、昨年から鶴見小野を舞台としたアートイベント「weTrees Tsurumi」というプロジェクトを開催するため、今年度は準備をしてきた。しかし海外からアーティストが来日できないということになり、プロジェクトを具体化することができず、地域とのコミュニケーションをどのように取っていくかというところが困難であったという報告があった。その他に、象の鼻テラスだけでなく、山下公園へのカフェ出店など、幅広い地域での活動もこれから活発にしていきたいという話も出た。また、象の鼻テラスとしても、横浜市の文化政策がこれからどんな形で展開されていくのか気にしており、創造界限全体の政策にさらなるドライブをどうかけていくかといったことも課題なのではないかという指摘があった。</p> <p>野原委員長 ○THE BAYS もコロナの影響で、リアルで検討していた取組が難しい状況になったが、比較的早い段階からオンラインへの切り替えが導入され、企画の内容は大きく変えずに進めることができたことは、民間のスピード感をポジティブに活用できたためと言える。特に前半期は、行政の取組は対面前提のためにストップしていたところもあると思うが、その辺は比較的早くに動けたので、機動力を発揮できたのではないかと。その結果、コロナ対策もありながら、シェアオフィスの需要が増え、会員数も少し伸びたので、来年度も状況を見ながら、ニューノーマルな場所の使い方を検討できるような組上があった部分が評価された。一方、課題としては、毎回指摘があるが行政と拠点との連携や並走。どういった形で横浜市と一緒に場所をつくっていくかに関しては、常々課題を感じているので、そのあたりで、他の拠点も目指す方向性のゴールはどこにあるのかが少し見えにくくなっているという問題点が出てきていると思う。他拠点にも共通すると思うが、どこを目指してクリエイティブシティ施策をやっていくのか、ここをもう少し明確にすると、お互い情報を共有しながら進められるのではないかと。2つ目に、活動を頑張っているが、それが一部のネットワークの中でしか認知されていないのではないかと。改めて創造界限拠点としての認知をどう上げていくかは課題である。3つ目に、DeNA ベイスターズと協働しているが、市の施策の中では、コミュニティボールパーク化構想あるいは横浜スポーツタウン構想という意味で、スポーツとクリエイティブを掛け合わせながら街に広げていくところが期待されているわけである。当初挙げていたような構想と、個々の活動のつながりが少し見えづらくなっている中で、ツーリズムも掲げている中で、これまで目標としているコミュニティボールパーク化構想や都心臨海部あるいは横浜エリアとのつながりがある形で事業が進められるといいのではないかと。</p>
--	--

恵良氏	<p>○この時期だから、外へ、街へ、そしてオープンスペースの活用に積極的に取り組むべきだと感じている。そのときに、個々のオープンスペースの活用と同時にオープンスペースをネットワーク的に捉えていただくと、山下公園、象の鼻、赤レンガパーク、日本大通りなどの在り方が分かる。見え方も良くなると思う。無理につなげなくても、そういうつながり感を見せると、都市の見え方がちょっと変わってくる。パブリックスペースとオープンスペースのネットワークの意識を少しずつ出していくことが、これからの方向性と視点だろう。拠点の機能的連携と同時に、空間の連携意識があることに横浜都心部の場所的意味があることも含めての意見である。また、当財団の広報・ACY のツールもかなり整ってきているので、各施設のプレゼンスを高め、創造限界拠点全体を見せていくことが必要な時期に寄与できると思う。一緒に創造都市を盛り上げていきたいと考えている。</p>
岡本委員	<p>○今年の急な坂スタジオの取組で広がりがあったのは、Creative Railway からのつながりで、横浜高速鉄道と連携して「ききみみ」を実施したこと。各駅のストーリーを作り、それを朗読して、配信するというものなのですが、横浜高速鉄道の方に詳しくインタビューした上で物語をつくったということもあり、横浜高速鉄道でも積極的にPR してくださっている。急な坂スタジオは稽古場であり、一般の方がいらっしゃる機会がなかなかつくりにくい中で、新しいアクセスの機会になったのではないかと、この時期だからこそその効果的な取組ができたのではないかと思っている。あとは、改めて広報をまとめていただき、いろいろきちんと広報をしていることが分かり、非常に参考になった。どうしてもイベント絡みにせざるを得ないところがあり、若干の偏りがあるところは気になるので、少ないところも今後積極的に取り上げていただけるといいかなと思う。</p>
事務局	<p>○「ききみみ」については、横浜高速鉄道さんが非常に気に入ってくださり、Creative Railway をきっかけに、そういった新たな交流が生まれた。</p>
菅野委員	<p>○広報に併せて、今回コロナということもあって、各拠点でデジタルの活用をすごく頑張っていると思うのだが、今の時代、デジタルにどういう媒体を載せるかがすごく重要になってきている。そういった中で SNS といった発信では、短くても動画がすごく重要になっている。来年度は動画プログラムの開発やノウハウの支援にも力を入れてもいいのではないと思う。</p>
遠藤委員	<p>○初黄・日ノ出町ですが、今の NPO としてはコロナ禍の今年1年をどうやって乗り切るかというのがあったのだが、令和8年度の京浜急行との高架下利用の契約満了の時期に向けては、どちらかという短期的な活動しか目指していけないということが明らかになった気がする。一方で、先ほどもあったように、長期的な目標をどうしていくのが、</p>

	<p>事務局</p> <p>野原委員長</p> <p>事務局</p>	<p>今回の分科会の中でもかなり時間を割いた議論になった。日ノ出町のエリアは、安全・安心のまちづくりとアートの活用において、一定の成果を出してきた一方で、その次の目標がなかなか明示できていない。ここに関しては、都市整備局や地元自治会、様々なステークホルダーときちんと検討しながら長期的な将来像をつくっていかねばいけないため、分科会内の意見交換だけでは限界があると感じる。進め方や検討に対するアドバイスについては、分科会レベルではなく委員会レベルで経過を見守っていきながら、場合によっては進め方のサポートを考えていったほうが良いと思った。</p> <p>○分科会でも非常に参考になるご意見を頂いた。京浜急行電鉄やYADOKARIなどの新たなプレーヤーも入ってきている。街自体も以前の違法飲食店があった頃と比べると、変化が表れてきている中で、次のステージに向かい、10年後に街をどうしていきたいかのゴールを関係者で共有しながら、具体的な対策を打っていくことが必要だと思う。場合によっては委員会レベルでの議論のために、内容を報告するなどしていければと思う。</p> <p>○質問、意見がなければ、審議事項（1）については了承とする。</p> <p>審議事項（2）文化芸術創造発信拠点形成事業の期間延長について <事務局より説明が行われ、議題について審議が行われた。></p> <p>報告事項：旧第一銀行横浜支店及び旧老松会館の公募に向けた進捗について <事務局より説明が行われ、議題について意見交換が行われた。></p> <p>その他 <事務局より情報提供が行われた。></p> <p>○これをもって、第5回横浜市創造界限形成推進委員会を終了する。委員の皆様、長時間ありがとうございました。</p>
資料		<p>①次第</p> <p>② [資料1] 委員名簿</p> <p>③ [資料2] 前回議事録（令和3年1月22日開催分）</p> <p>④ [資料3] 令和3年度事業計画及び事業評価軸</p> <p>⑤ [資料4] 文化芸術創造発信拠点形成事業の期間延長について</p> <p>⑥ [資料5] 旧第一銀行横浜支店及び旧老松会館の公募に向けた進捗について</p>
特記事項		